



平成8年に、カナダのバンクーバー島に設置された水中マイクを通して、7メートルあまりもあるシャチ（学名オルカ）の巨体から「キューーン、キューーン」と美しい鳴き声を聞いたときの驚愕ともいえる感動が、三屋智子さんの人生に大きな転機を与えました。

三屋さんは早速シャチの研究では世界的権威の、ポール・スポング博士を訪ね、研究チームへの参加をお願いします。しかし、言葉が障害となり断られます。強い思いが、三屋さんを語学勉強に無我夢中にさせ、3年後には承諾を得る

シャチの研究に人生をかける

三屋 智子さん(31) 毛屋町

ことができました。

「シャチは家族ごとに行動し、家族ごとの方言で会話するんです。」と目を輝かせながら話す三屋さんは、研究に携わって今年で10年目を迎えます。毎年6月末から9月中旬まで海外で研究生活を送り、「鮭の群れを追いかけながら、家族の行動パターンを記録しています。」とのこと。

また、根っからのタイガースファンだという三屋さんは、シャチ（漢字で鮫）に縁を感じる中で、オフの期間は勝山の自宅で生活をしながら「趣味を超えて生きがいです。」と言うタイガースの試合観戦やライブハウスで音楽を楽しんでいます。

「私はシャチと人間との橋渡し役。みんながシャチを知って好きになり、そのシャチを守るために自然環境保護に目を向けてもらいたいです。」とシャチを通して知った自然のすばらしさに心を寄せる三屋さんでした。

出会いふれあい 青春群像



長谷川悟さんは、豪雪地帯の勝山でメロン作りを定着させ、また、食育ボランティアに取り組む活動などが評価され、農業などの分野で優れた効果を上げ地域活性化に貢献した人に贈られる中日農業賞で優秀賞を受賞されました。

長谷川さんは、小学生の頃から友達遊ぶのを横目に農作業を手伝い、忙しく家族旅行もあまりなかったため、農業に対し良いイメージを持っていなかったとのこと。しかし、「親の働く姿を間近で見ると、農業をしようという心に決めてからは、メロン栽培などの農作業にいそしみ、今となってはその頃の手伝いで忍耐力がついて良かったです。」と笑顔を見せます。

また、「農業は、自然が相手て人間

関係の煩わしさがなく、マイペースでできるのは魅力。でも、雪の重みでハウスが潰れそうになったり、作物が病気で思うような収穫がないなど大変なこともあります。」と今の仕事を振り返ります。

青年農業者でつくる「ほやほやクラブ」の代表を務めた長谷川さんは、食育ボランティアなどの活動を通して「小学生には食育、中・高校生には農作業や収穫作業の実体験で農業に触れてほしい。それが将来の後継者づくりのきっかけとなれば嬉しいです。農業を本格的にやろうという人への支援は惜しみません。」と将来の農業に目を向けて語る言葉の中に、農業にかける情熱をにじませていました。

思い出いっぱいの 細野分校にさようなら

少子化の影響を受け、この3月末で約130年の歴史に幕を閉じることとなった荒土小学校細野分校で、3月23日に同分校の歴代校長やゆかりのある先生、地元のかたがたを招いて休校式が行われ、会場は参列者で満杯になりました。

笠羽忠恭校長先生は、「これまで分校の児童たちは、お互いに切磋琢磨して、たくましく生きる力や豊かな人間性を育んできました。いろいろな思い出や数々の思い出が詰まったこの分校が休校となることに複雑な思いです。分校の皆さんは、自信と誇りを持ってがんばってください。」とあいさつされました。また、以前に細野分校で教鞭をとった先生がたは、児童と一緒に草摘みや魚とりなどをした、なつかしい思い出をしみじみと語り、分校の休校を惜しんでいました。

在校生3人が、「おじいちゃんやおばあちゃんが子どもの頃からあった分校。お父さんやお母さん、ぼくたちの思い出いっぱいの分校。その分校に来られないと思うと悲しいです。でも、分校で過ごせたことを幸せに思います。細野分校ありがとう。そして、さようなら。」とお別れのことばを述べると、会場からは盛大な拍手が送られました。

最後に原崎康子さん（荒土小6年）のピアノ伴奏により、荒土小学校校歌を斉唱し、思い出多き学び舎に別れを告げました。



在校生3人のお別れのことばを微笑ましく見つめる参列の皆さん

勝山市地域職業相談室を開設

ハローワーク勝山（大野公共職業安定所勝山出張所）が、3月31日にハローワーク大野に統合されたことに伴って、4月2日、奥越地域地場産業振興センターの2階に勝山市地域職業相談室が開設されました。

この相談室は、市が場所を提供し、福井労働局が業務を運営するもので、県内では初の試みとなります。2人の相談員が常駐しており、ハローワーク大野の職員が週1〜2回巡回します。さらに、施設内には奥越ではここだけとなる、タッチパネル方式の「求人情報自己検索機」が5台設置されています。市内はもとより県内の最新の求人情報を簡単に検索し、この相談室で就職の手続きを完結することができ、また、奥越管内事業所からの求人の受理（取り次ぎ）なども行います。

開所式では、福井労働局の河村由子局長が「地域における雇用相談サービスの拠点として、気軽に利用してもらいたい。」と、あいさつし、山岸市長は「ハローワーク勝山が廃止されたのは残念だが、積極的にこの施設をPRして、利用者の拡大に努めたい。」と述べました。



地域職業相談室の開設を祝う関係者の皆さん

福井大学医学部附属病院に寄付

4月3日、山岸市長と岡田大野市長が福井大学医学部附属病院を訪れ、山口明夫病院長と小辻文和産婦人科教授に、医療連携支援としてそれぞれ250万円を寄付しました。

平成19年3月末に、福井社会保険病院で産婦人科医不足により分娩機能を中止することになったことから、「妊婦の定期健診は福井社会保険病院で行い、分娩については福井大学医学部附属病院産婦人科がサポートする」という医療連携が構築され、同年4月から開始されました。今回の寄付はこの連携を支援するため、分娩にかかる医療機器購入費を補助するものです。

山岸市長は「地域に出生できる病院がないとなると、これこそ地域格差の最たる象徴といえます。この医療連携は、地域が発展できる下地を創ってくれました。」と感謝の言葉を述べました。これを受け、小辻教授は「今の連携が最終形態とは思っていません。さらに良くなるよう考えていきます。」と応えまし



山口明夫病院長に目録を渡す山岸市長